

GIGAスクール構想支援事業 (市町立学校の支援)について

佐賀県ICT活用教育推進 **NEXT STAGE**
PROJECT E

教育イノベーション 教育方法や学校運営を含む教育活動全体のデジタル化により
未来に向けて新しい価値を生み出していく「子ども」を育てる

PROJECT E 推進ロードマップ

R2	R3～R4	R5～
Phase1 Establish (3E) ～体制づくり・試行～	Phase2 Evolution ～実践・進化～	Phase3 Epoch-making ～自走・最適化～

PROJECT E▶▶▶

<Mission>

E-learning

- ・新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大に備え、自宅等での授業の実現を可能とし、日常的な遠隔教育の実現を目指す。

<Challenge>

Emotion

- ・同時双方向授業のモデル構築
- ・教育用コンテンツの活用による授業

Everywhere

- ・授業を受ける側のWi-Fi環境の確保
- ・授業を送る側の環境整備

PROJECT E プラス事業

- ・オンライン教育環境整備事業
- ・市町展開サポート事業
- ・GIGAスクール構想支援事業
- ・小・中・高を通じた英語教育強化事業
- ・校内LAN整備費

学校が各々の状況に基づき
 独自性・創造性を発揮

学びのSAGANアップデート

- ・良質な学びの創造（学びの広がり、深まり、つながりの追求）
- ・個別最適化された授業の実現
- ・学びのハイブリッド化（対面指導とオンライン教育の融合）等

各種研修

- ・基本研修、推進リーダー研修
- ・希望研修
- ・教育フェスタ 等

プロジェクトEプラス

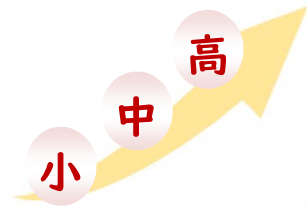
～教育や学校運営のデジタル化で
新しい価値を生み出す子どもを育てる！～

授業改善
～学びが変わる～

対面指導とオンライン教育の融合



様々な場面を想定し、個別最適化された
学びを提供



小・中・高
継続した教育で
英語力強化



市町教育委員会の
GIGAスクール構想を
全面バックアップ



県立学校のネットワーク
環境の高度化を推進

教育活動のオンライン
～教育活動が変わる～

行事、研修等のオンライン化推進



コロナ禍でも、様々な工夫をして
教育活動を継続

未来に向けて新しい価値を生み出す子ども

学びのSAGANアップデート

～|人|台端末で創る「広がる・深まる・つながる」学び～

授業改善

- ・これまでの教育実践とICTのベストミックス
- ・個別最適化された授業の実現
- ・学びの広がり、深まり、つながりの追求
- ・限られた時間の有効活用
- ・共通理解と共通実践



PROJECT E

全ての子どもたちの可能性を引き出す 個別最適な学びと協働的な学びの実現へ

社会情勢
の変化

- IoT、AI等をはじめとする技術革新により社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 多様化する子どもたちに対応するための公正に個別最適化された学び実現への期待
- 感染症の広範囲に及ぶ流行や災害など危機事象対応への必要性の高まり

・これまでの教育実践とICTのベストミックス

- ・情報の収集、整理、発信
- ・アイデアの可視化
- ・記録のデータ管理
- ・振り返りや表現に活用

・個別最適化された授業の実現

- ・同時に別々の内容の学習
- ・学習履歴の記録
- ・1人1人の理解度に応じた個別学習
- ・個に応じた指導

・学びの広がり、深まり、つながりの追求

・限られた時間の有効活用

広がり

- ・興味の幅
- ・興味関心
- ・価値

深まり

- ・議論
- ・思考
- ・理解

つながり

- ・知識
- ・学習履歴
- ・想い

- ・離れた場所からの協働作業
- ・保存したノートや板書の画像の活用
- ・アプリを使用して短時間で作成・集約

県立学校、市町立学校が一体
共通理解・共通実践

5月から6月にかけて 市町教育委員会、市町立学校を訪問

○現状の導入状況

- ・全学年導入済み・・・・・・・・・・ 15自治体
- ・9月までに全学年導入予定・・・・ 4自治体
- ・令和5年度までに全学年導入・・・ 1自治体
(3分の1の学校で全学年導入済み)

○課題

- ・できる教員とできない教員の二極化
- ・教師の意欲や基本スキル等を含めたICT活用指導力の格差
- ・教員のICT活用指導力に資する研修の実施が急務
- ・具体的な授業での活用事例等の情報不足
- ・端末運用ルールの未整備 など

○教師に必要な研修

具体的な事例を示し、学んだことをすぐに授業で生かせる研修

- ・「身に付けさせる力(情報活用能力)の具体」
- ・「1人1台端末の授業での具体的な活用例」
- ・「ICT活用指導力の習得」 など

市町立学校の現状と課題

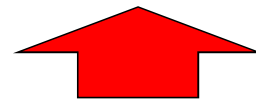
市町間でかなりの格差、
抱える課題も多岐

喫緊の課題

市町間格差を是正し、教員のICT活用指導力の向上を図る。

課題解決のために

- ・授業実践を推進するリーダーの育成すること
- ・リーダーを中心とした授業実践を横展開すること
- ・校長のリーダーシップのもと学校全体で取組を推進すること

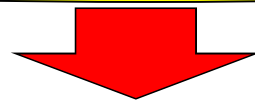


積極的に行う

これまで得た経験・知見を活かした
研修の実施や情報提供等の支援

○市町立学校の支援

エリアコーディネーター（担当指導主事）の配置



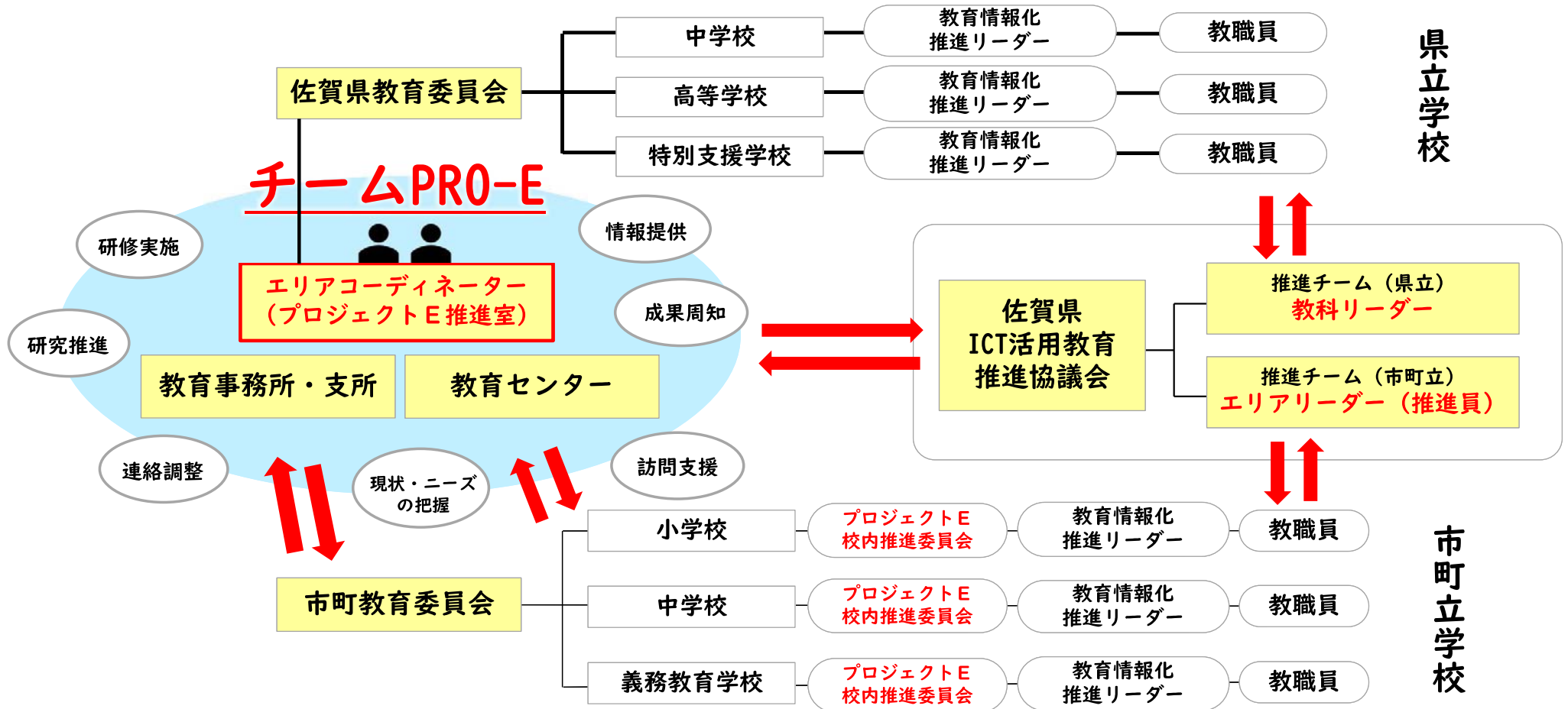
- ・教師のICT活用指導力の向上
- ・1人1台端末を活用した
佐賀県版授業改善「学びのSAGANアップデート」の推進

○具体的な取組

- ・市町教育委員会、市町立学校の導入状況、困り感等の把握
- ・各種研修会の実施
- ・研究の推進、公開授業及び授業研究会の実施
- ・相談窓口の対応

GIGAスクール構想支援事業の推進体制

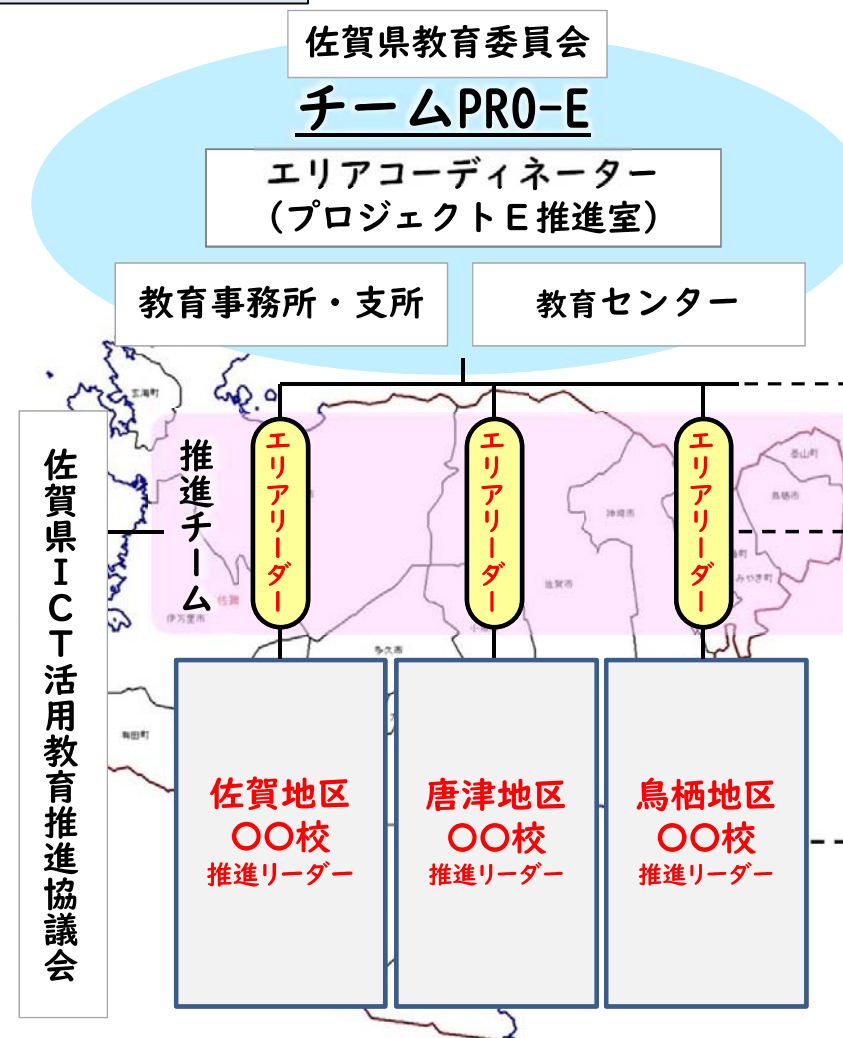
令和3年度GIGAスクール



エリアリーダー（推進員）について（小中学校）

令和3年度GIGAスクール

- 1 役割
プロジェクトEの人的支援
各市町における推進のコア的位置づけ
- 2 主な活動内容
 - ・地域内における各種研修会等のコーディネート
 - ・モデル授業の公開
 - ・演習における講師
 - ・県や市町の広報の機会（教育フェスタ等）における情報提供
 - ・通信等による実践事例の紹介
 - ・その他プロジェクトEの推進に関すること
- 3 選任
各地区担当20名を選任する
- 4 活動期間
活動期間は2年間とする



・各種研修会の実施

○県教育委員会主催の研修及び支援

- ①教科リーダー、エリアリーダー研修会
- ②教育情報化推進リーダー研修
- ③職員の経験年数別研修
 - ・初任者研修
 - ・3年経験者研修
- ④基本スキルアップ研修(仮称)
- ⑤校内研修に係る支援
- ⑥管理職研修

授業実践を推進する
リーダーの育成

OJTによる
1人1台端末活用の横展開

校長のリーダーシップのもと学
校全体での取組の推進

全県的な1人1台端末の活用の推進

☆基本スキルアップ研修（仮称）、校内研修に係る支援について

【研修の進め方】

1 事前準備

学校への聞き取り（ニーズの把握）

【研修について】

- ・1人1台端末の活用の有効性、必要性の理解を促す研修
- ・授業における具体的な活用事例を盛り込んだ研修
- ・端末によらない汎用的な指導法に関わる研修
- ・学びの広がり、深まり、つながりの追求をしていく研修

授業における活用の推進

2 当日（例）

- (1) プロジェクトE推進室から
 - ・「学びのSAGANアップデート」
 - ・活用事例等の情報提供
 - 明日から使える活用事例の提供
- (2) 演習・協議
 - ア 授業での活用方法の検討（個人）
 - イ グループ協議（グループ）
 - ウ 協議内容の発表（全体）
 - エ 個人の具体的な取組の決定（個人）
- (3) プロジェクトE推進室からの提案
 - ・良質な学びの創造について

・研究の推進、公開授業及び授業研究会の実施

○研究指定校（1人1台端末の活用）
（小学校2校、中学校1校）

○公開授業の実施

- ・研究指定校
- ・県立校の教科リーダー
（高等学校13名）
- ・エリアリーダー（推進員）
（小学校6名、中学校4名）
- ・スーパーティーチャー

○公開授業の流れ
日程（例）

- 1 授業公開
- 2 授業研究会
 - ・授業の目的・観点についての説明
 - ・質疑応答
- 3 1人1台端末を活用した授業改善について
- 4 1人1台端末の活用についての情報交換

リーダーを中心とした授業実践の横展開

県立学校と市町立学校合同開催

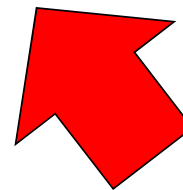
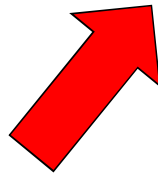
これまでの知見を活かし、活用についての情報の共有

年間スケジュールについて

○各種研修会について		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①県立教科リーダー、市町エリアリーダー研修				○ 合同							○ 合同		
②教育情報化推進リーダー研修(オンライン研修)				○ 県立	○ 市町							○ 合同	
③職員の経験年数別研修	初任者(オンデマンド研修)			→			→						
	3年経験者(オンデマンド研修)			→									
④基本スキルアップ研修							○ 2日		○ 2日				
⑤校内研修に係る支援				→									
⑥管理職研修会(オンデマンド研修)		→											
○公開授業及び授業研究会		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究指定校(小学校2校、中学校1校)					○				○	○			
教科リーダー(13名)								→					
エリアリーダー(10名)								→					
スーパーティーチャー								→					

・相談窓口の対応

プロジェクトEサポートステーション



気軽に相談

市町教育委員会

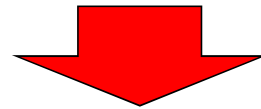
市町立学校

【相談内容】

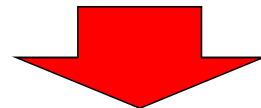
- ・1人1台端末を活用した授業づくり
- ・実践事例等の情報提供
- ・校内研修等への支援
- ・通信環境整備・運用ルール作成等への支援 など

○期待される効果について

- ・授業実践を推進するリーダーの育成
- ・リーダーを中心とした授業実践の横展開
- ・校長のリーダーシップのもと学校全体での取組の推進



教員のICT活用指導力の向上



全県的な1人1台端末の活用推進

令和3年度 小・中・高等学校を通じた 英語教育強化事業

これまでの成果

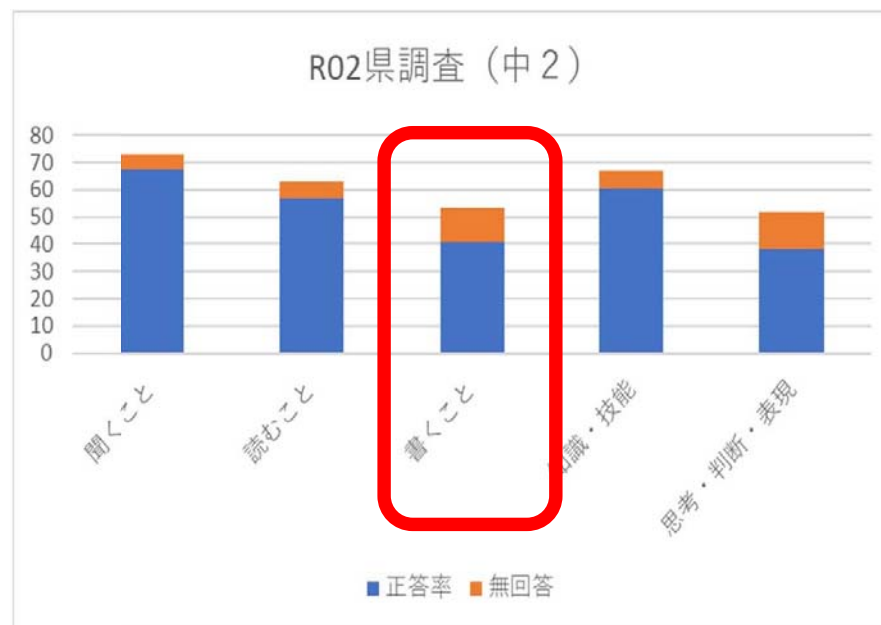
佐賀県の中学校・高校

- 中学校においては
 - 「英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる」
 - 「日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」
 - 「基本的な表現を理解して、応答することができる」力が向上している。
- 高等学校においては、高校1年生から2年生にかけて英語運用能力が伸長し、生徒の英語運用能力の底上げができています。

佐賀県小・中学校学習状況調査

佐賀県中学1年生、中学2年生

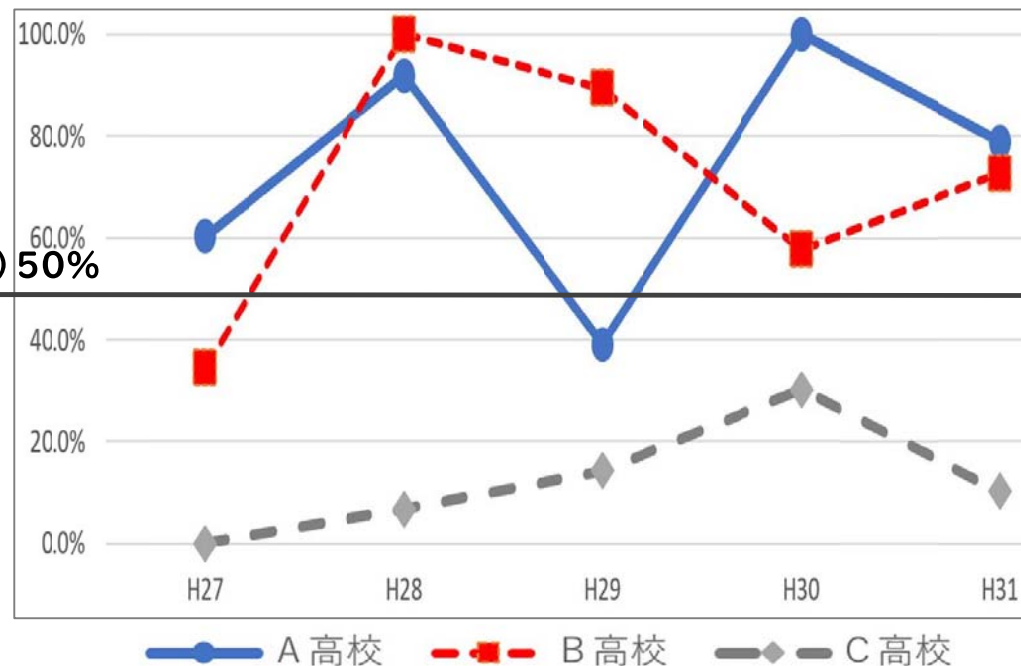
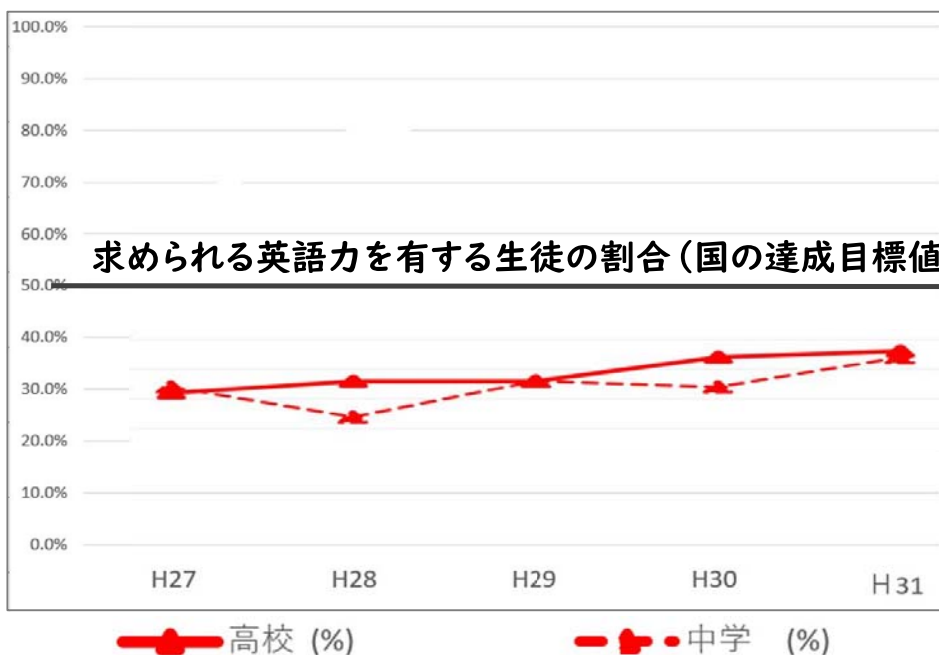
- 「書く」能力に課題がある
- 「思考・判断・表現」の能力が中学1年生から中学2年生にかけて伸長していない
- 無回答も増加する傾向にある。



佐賀県英語教育実施状況調査

佐賀県の中学校・高等学校

- 中学・高校：全国平均値を下回っている
- 高校：県が定める目標値及び国が定める到達目標に達していない
- 中学：県が定める目標値は達成、国が定める到達目標に達していない



佐賀県の課題

佐賀県内の中学校

- ① 佐賀県学習状況調査（中学校1年生・2年生対象）から
 - 「対話を聞いて把握した内容について、適切に応じる」
「まとまりのある英語を聞いて、話の内容を理解する」
「話の内容や書き手の意見などを捉え、自分の考えを表現する」
力が、到達基準に達していない。
 - 特に、文法事項の習得・活用、概要や要点を把握する力、即興で話す力が必要である。

佐賀県の課題

佐賀県立高校

- ② 英検IBA及び「学びの基礎診断」(県立高校生対象)から
- 高校2年生から高校3年生にかけて生徒の英語運用能力を十分に伸ばできていない学校が多く存在する。
 - 生徒に身につけさせたい力を明確にした授業計画や客観的データに基づく評価の確立等、抜本的な授業改善が求められる。

佐賀県英語教育推進プラン

令和3年度 佐賀県英語教育改善プラン

佐賀県が目指す英語教育

目標値（2022年度達成値）

求められる英語力を有する英語担当教員の割合（高校 95% 中学校 60%）
求められる英語力を有する生徒の割合（高校 50% 中学校 50%）
学習達成目標の整備状況（小・中・高 共に3項目すべて100%）

（設定値・公表値・達成状況の把握の割合）

現状（2019年度）

求められる英語力を有する英語担当教員の割合（高校 87% 中学校 40%）
求められる英語力を有する生徒の割合（高校 38% 中学校 37%）
学習達成目標の整備状況（設定値 中高 100%）
（公表 高91% 中19%）
（把握 高78% 中50%）

佐賀県英語教育推進プラン

課題の要因

佐賀県の中学校・高校

① 小・中・高等学校各段階における目標・到達度が不明確

- 各段階において指導する項目が重複したり、不足したりしている。
- CAN-DOリストが校内の英語教員間で共有されていない、または、CAN-DOリストを有効活用していない学校がある。

佐賀県英語教育推進プラン

課題の要因

佐賀県の中学校・高校

② 中・高等学校における生徒の英語運用能力の把握が不十分

- 英語教員の見取りによる「求められる英語力を有する及び有すると思われる生徒」の割合については、年度ごとに数値が大きく差がある場合がある。
- 教員による生徒の英語運用能力の正確な把握ができていない状況があるのではないかと推察される。

小・中・高を通じた英語教育強化事業

佐賀県の現状

- ・高3で英語技能資格を取得している生徒の割合は高いが、⇒ 二極化
取得していない生徒の英語力は全国最下位レベル
- ↳ 個別の教員の主観により判断=生徒の英語力を図る指標がない
- ・英語力を図る指標がないため、進級や進学時に客観的な学力が共有できず、指導に継続性がない

全県下で、**生徒の英語力の規準=佐賀県CAN-DOリスト**を設定し、
規準に応じた学習が県内どの学校においても継続できる仕組みを作る

目標を見える化する

- ・小・中・高での各段階における**目標・到達度の明確化・共有**
- ・CAN-DOリスト作成
- ・リストに基づいた指導計画の策定

小5	小6	中1	～	高2	高3
A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B
～	～	～	～	～	～
F	F	F	F	F	F
G	G	G	G	G	G

授業を変える

- ・小中学校の枠を超えた研究
- ・CAN-DOリストの利用
- ・客観的データに基づく評価の確立と授業改革



デジタル教材を活用
(授業&各自)

ICTの強みを活かす

- ・個別最適化された反復学習
- ・いつでもどこでも繰り返し学習する
- ・児童生徒の弱点を明確にとらえる
- ・弱点・課題に応じた学習でステップアップ
- ・学力の分析を基に授業改善可能
- ・小・中・高での到達度を客観的に測定・蓄積・共有



※測定結果は高校3年まで引継

個別最適化の学びを可能にすることで、英語力の強化を図る

佐賀県の児童生徒の英語力が小・中・高継続して高まっていく

佐賀県 ICT活用教育推進 NEXT STAGE
PROJECT E

教育イノベーション 教育方法や学校運営を含む教育活動全体のデジタル化により
未来に向けて新しい価値を生み出していく「子ども」を育てる

PROJECT E 推進ロードマップ

R2	R3～R4	R5～
<p>Phase1 Establish (3E) ～体制づくり・試行～</p>	<p>Phase2 Evolution ～実践・進化～</p>	<p>Phase3 Epoch-making ～自走・最適化～</p>
<p>PROJECT E >>></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>< Mission ></p> <p>E-learning</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大に備え、自宅等での授業の実現を可能とし、日常的な遠隔教育の実現を目指す。 <p>< Challenge ></p> <p>Emotion</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時双方向授業のモデル構築 ・教育用コンテンツの活用による授業 <p>Everywhere</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受ける側のWi-Fi環境の確保 ・授業を送る側の環境整備 </div> <div style="width: 35%;"> <p>PROJECT E プラス事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン教育環境整備事業 ・市町展開サポート事業 ・GIGAスクール構想支援事業 ・小・中・高を通じた英語教育強化事業 ・校内LAN整備費 <p>学びのSAGANアップデート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質な学びの創造（学びの広がり、深まり、つながりの追求） ・個別最適化された授業の実現 ・学びのハイブリッド化（対面指導とオンライン教育の融合）等 </div> <div style="width: 30%;"> <p>学校が各々の状況に基づき 独自性・創造性を発揮</p> <p>各種研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本研修、推進リーダー研修 ・希望研修 ・教育フェスタ 等 </div> </div>		

プロジェクトEプラス

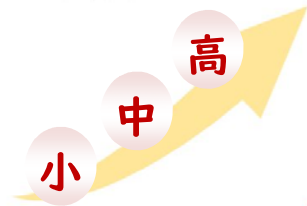
～教育や学校運営のデジタル化で
新しい価値を生み出す子どもを育てる！～

授業改善
～学びが変わる～

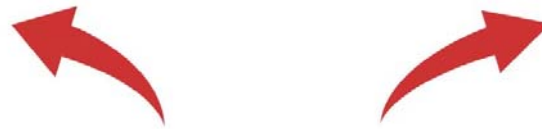
対面指導とオンライン教育の融合



様々な場面を想定し、個別最適化された
学びを提供



小・中・高
継続した教育で
英語力強化



市町教育委員会の
GIGAスクール構想を
全面バックアップ



県立学校のネットワーク
環境の高度化を推進

教育活動のオンライン
～教育活動が変わる～

行事、研修等のオンライン化推進



コロナ禍でも、様々な工夫をして
教育活動を継続

佐賀県ICT活用教育推進 NEXT STAGE
PROJECT E

Phase2 Evolution

～実践・進化～

事業化による支援 → 全県取組の充実

・GIGAスクール構想支援事業～学びのSAGANアップデート推進～ **PROJECT E プラス事業**

- 1 GIGAコーディネーターの配置（市町立学校支援強化）
- 2 指定校での研究の推進（研究指定校 3校）
- 3 モデル授業公開、研修会の実施（スキルアップ、授業づくり、ST活用）
- 4 訪問支援（校内体制推進、タブレット端末活用推進）

・小・中・高を通じた英語教育強化事業

- 1 小・中・高の英語担当教員で構成する推進チームによる、英語指導目標の統一の基準づくり
- 2 英語学習デジタル教材作成
- 3 推進チームによる英語指導法研究

市町教育委員会の
GIGAスクール構想を
全面バックアップ

+

県立学校のネットワーク環境
の高度化を推進

・オンライン教育環境整備事業

- 1 不登校生徒支援、オンライン面接・研修等、オンライン配信及び受講等のための環境整備（可動式パーテーションを使用したブース等を整備）
- 2 オンライン配信を補助する支援員の配置（県立中学校4校）

・市町展開サポート事業

- 1 市町の学校ICT環境整備・運用のサポート

・校内LAN整備費（県立学校）

- 1 学校内のネットワーク環境を高度化し、学習環境や校務の利便性向上

共通理解と共通実践

佐賀県のせんせいがひとつになる

学びのSAGANアップデート

～1人1台端末で創る「広がる・深まる・つながる」学び～

授業改善

- ・これまでの教育実践とICTのベストミックス
- ・個別最適化された授業の実現
- ・学びの広がり、深まり、つながりの追求
- ・限られた時間の有効活用
- ・共通理解と共通実践

さが
すたいる



各種研修等によるフォロー

- ・ 小学校英語指導力向上研修
- ・ 研究指定校（2校）
- ・ 小学校英語教育専科指導員加配事業
- ・ 中学校英語指導力向上研修
- ・ 中学校英語力向上研修
- ・ 県教育指定校（2校）
- ・ 高等学校英語指導力向上研修
- ・ 授業改善研究及び公開授業研修
- ・ 教育センター各種希望等研修

小・中・高を通じた英語教育強化事業推進委員会

取組状況

CAN-DOリストの作成

CAN-DOリストを活用した授業及び学習評価に関する研究

佐賀県英語学習デジタル教材に求める機能



佐賀県英語学習デジタル教材を活用した授業及び学習評価に関する研究

佐賀県英語学習デジタル教材の具体的な機能

対応するシステム	全システム (Windows, Chrome, iOS, Android)
ユーザー数	児童生徒 約8万人 教職員 約8千人
求める機能	「読む」「書く」「聞く」「話す」に対応 CSV形式でのデータ入力・出力 英語レベルを判定 (20問・自動採点・即時判定) 個別最適化の学びに対応
家庭学習に活用	長期休暇中はゲーム的な機能を限定公開
分析に活用	よく使うリンク集などの分析

令和3年度 1人1台端末を活用した学校の取組について



R3年度 1人1台端末を活用した教育における取組目標
～ 県立高校における取組目標 概要 ～

▶ 視点1 – 授業改善の取組 –

	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学習に向かう力・人間性等
深まり	思考力の向上（深まり） ・他の生徒の意見との比較や傾向の分析等を行い、思考を深めるなど	・課題解決能力の育成 ・分析能力の育成		○	○
	学力養成・基礎学力の定着（深まり） ・基礎の定着から大学入試を見据えた応用力養成に取り組む ・生徒が試行錯誤して理解を深める学びを実現するなど	・身に付けた知識や技能の活用 ・思考力・判断力・表現力等の育成	○	○	○
広がり	プレゼンテーション能力の向上（広がり） ・論理的に説明しながら発表する力を有する生徒の育成 など	・学習の基盤となる情報活用能力の育成 ・生徒の発信力の育成	○	○	
つながり	学力養成（つながり） ・意見を共有における、より深い理解の促進・思考力育成 ・生徒の関心・意欲・理解度を把握・分析した、授業改善 など	・主体的に学習に向かう力の育成 ・個別最適化の学びの実現 ・授業改善の取組	○	○	○

▶ 視点2 – 授業外の取組 –

	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学習に向かう力・人間性等
学力向上	家庭学習(自学自習) ・実用英語技能検定準2級相当の英語力を持つ生徒の育成 ・学習動画を視聴したり、Webテスト機能を使って学習に取り組み基礎・基本の定着を目指す など	・個別最適化の学びの実現 ・主体的に学ぶ力の育成	○		○
	アンケート機能を活用した分析 家庭学習時間の入力などの各種調査等の、アンケート機能を利用した実施 など	・数値比較や分析能力の育成	○	○	
進路指導	ポートフォリオ作成 ・記録を確実にい行いポートフォリオの作成 ・自己を見つめ将来について積極的に考える態度の育成 など	・生徒の主体的な学びの定着 ・高大接続改革への対応		○	○
	進路指導(面接指導) ・面接応答等についての振り返り ・主体的に学びに向かう力の育成 など	・進学、就職等、自己実現に向けて ・就業時のビジネススキルの習得		○	○
情報活用能力	プレゼンテーション能力の育成 ・論理的に説明できる資料作成能力の育成 など	・学習の基盤となる情報活用能力の育成 ・生徒の発信力の育成	○	○	○

個別最適化の学びを実現する取組：アンケート機能等を活用する学校の割合 13校
学習支援アプリケーション等を活用する割合 7校

● 令和3年度の傾向

- アンケート機能や学習支援アプリケーション等を活用した、個別最適化の学びを実現する授業改善に取り組む学校が多い。
- 授業外の取組についても、基礎力定着を目的とした個別最適化の学びを実現する取組をする学校が多い。
- 進路指導の充実のために1人1台端末を活用する学校が多い。



R3年度 1人1台端末を活用した教育における取組目標
～ 県立中学校における取組目標 概要 ～

▶ 視点1 – 授業改善の取組 –

	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
深まり	思考力の向上（深まり） ・教科横断的な学びを実現する。 ・他の生徒の意見との比較や傾向の分析等を行い、思考を深める。	・課題解決能力の育成 ・分析能力の育成		○	○
広がり	プレゼンテーション能力の育成（広がり） ・目的に応じて適切に情報手段を活用し、主体的に情報を収集し、発信できる能力を育成する	・考えを適切に説明する力の育成 ・情報を整理・発信する力の育成		○	○

▶ 視点2 – 授業外の取組 –

	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
学力向上	家庭学習(自学)での活用 ・中学卒業までに英語検定準2級以上を取得した生徒の割合	・英語によるコミュニケーション力の育成 ・リスニング力、スピーキング力の向上	○		
	ポートフォリオ作成 ・記録を確実にいりポートフォリオの作成 ・自己を見つめ将来について積極的に考える態度の育成 など	・論理的かつ視覚的な表現力の育成 ・分析能力の育成		○	○
分析	アンケート機能を活用した分析 家庭学習時間の入力などの各種調査等の、アンケート機能を利用した実施 など	・数値比較やデータ分析の育成	○	○	

個別最適化の学びを実現する取組：授業改善の取組 2校
授業外の取組 3校

- すべての県立中学校で、個別最適化の学びの取組を行っている。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を取組目標に定めている学校が多い。
- プレゼンテーション能力の育成等、主体的に情報を分析したり、活用する能力を育成を目指す学校が多い。



R3年度 ICTを活用した教育における取組目標
～ 特別支援学校における取組目標 概要 ～

▶ 視点1 - 学習用情報端末を活用した取組 -



	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
深まり 広がり	知識・技能/学びに向かう力 困難さを軽減し、基礎力の定着・学力向上	・学びへの意欲的、主体的な参加	○		○
情報 リテラシー	体験学習・調べ学習・発表活動での活用 アクセシビリティ機能を活用して、自らの視機能に合わせたパソコンの操作ができる生徒の割合 など	・就労に向けての支援	○	○	○
情報 活用 能力	体験学習・調べ学習・発表活動での活用 目的に応じて適切に情報手段を活用し、主体的に情報を収集し、発信できる能力を育成する	・情報を収集し選択する力の育成		○	○
教員の スキル	授業改善・指導法の工夫 児童生徒の特性や困難さに応じた授業づくりや支援を行うことができた割合 など	・ICTを活用した指導力の向上 ・写真等を用いた見通しを持った学習活動の保証	○		○

▶ 視点2 - 電子黒板を活用した取組 -



	学校目標	設定理由	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
深まり 広がり	知識・技能/学びに向かう力 デジタル教材や動画を効果的に活用した自学自習	・主体的に発表する態度の育成 ・お互いの発表を理解したり、活用したりする力の育成	○		○
広がり つながり	文章作成能力の育成 ことばの力を高め、自分の考えをわかりやすく伝えることができる児童生徒の育成 など	・学びへの意欲的、主体的な参加 ・疑似体験による学習への満足感		○	○
教員の スキル	学習、生活上の困難の克服への支援 動画や画像を補助資料として提示しながら効果的な提示をしたり、児童生徒の興味関心を引き出す教材作成ができる教員の割合	・個別の支援計画を基にした支援 ・個々の障害に応じた視認性の向上	○		○
	学習、生活上の困難の克服への支援 活動の内容や日程など、学習に係る具体的な見通しが持てるようになる など	・学習への達成感の成就と自己肯定感の高揚 ・写真などを用いた見通しを持った学習活動の保証	○		○



1人1台端末の活用

1人1台端末の活用については、児童生徒の活用を想定した目標を設定している学校が多く、【情報活用能力の育成】、【調べ学習・発表活動での活用】を目標に挙げている学校が多い。
児童生徒の個々に応じた基礎学力の育成や学力向上に取り組む学校も増えてきている。



電子黒板の活用

電子黒板の活用については、教師の活用を想定した目標を設定している学校が多く、【授業改善・指導法の確立】、【学習、生活上の困難の克服への支援】を挙げている学校が多い。具体的には、画像・映像等を提示して、学習の見通しを持たせる、興味や関心を高めることなどをねらいつつしている。
一方で、「自学自習」の取組を目標に掲げる学校がある。